

## 令和6年度第1回山口警察署協議会会議録

開催日時	令和6年6月26日（水） 午後3時00分から午後5時00分までの間	
開催場所	山口警察署4階 講堂	
出席者	委員	石津委員、青木委員、山本委員、高橋委員、春永委員、藤井委員 真庭委員、佐伯委員、金子委員、吉本委員、福田委員、上原委員 岡委員  計13名
	警察署	署長、副署長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事第二課長 交通課長、警備課長、警察安全相談課長  計9名
議題	1 所管業務の推進状況 2 警察職員採用募集活動の推進	

### 1 会長挨拶

令和6年度第1回山口警察署協議会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。新年度に入り最初の協議会であるが、昨年度同様に皆さんからは忌憚のない意見を願います。

先週の月曜日、平年よりも13日遅れでようやく梅雨入りし、この梅雨が明ければいよいよ夏本番であるが、皆さんもご承知のとおり、今、山口市は世界的にも注目されており、国内外から多数の観光客の来訪が予想されるなど、今年は「熱い夏」になりそうである。

しかし、楽しい事ばかり言うてはおられず、忘れてはならないのが昨年この時期に発生した大雨に伴う災害である。あれから1年が経過した今、山口市内の被災箇所については概ね復旧作業を終えているものの、県内では山陰線の一部と美祢線がいまだ不通で、特に美祢線は復旧の目途が立っていない。今年こそは、自然災害のない穏やかな梅雨時期であってほしいと願っている。

少し管内の話をする、新年度に入って早々の4月23日の日中、警察署近くの国道9号上で、軽四自動車を運転中の高齢男性が中央分離帯と衝突し亡くられる交通死亡事故が発生したと伺っている。しかしながら、管内でこの事故以外に大きな事件事故が発生していないのは、治安維持のため日夜奮闘されている署員の皆さんによる不断の努力の成果だと理解しており、委員を代表して感謝を申し上げます。

さて、今回の諮問事項は「警察職員採用募集活動の推進」についてであるが、警察官は、ひと昔前までは子供になりたい職業の上位に必ずランキングしていたところ、最近では少し様子が違うようで、受験希望者数も年々減少傾向にあると聞いている。後程、警務課長から説明があると思うが、これからは担っていく優秀な人材を確保するために色々な施策を展開中の県警に対し、何か後押しできることはないか、委員の皆さんと協議する中で探っていきたいと思う。

**2 署長挨拶**  
(省略)

**3 所管業務の推進状況（署長）**

令和6年5月末の業務推進状況について、以下の項目に沿って説明を行った。

- (1) 警察安全相談課関係
  - ア 相談の受理状況
  - イ 相談受理件数、内訳
- (2) 生活安全課関係
  - ア 犯罪抑止指定6罪種の認知件数
  - イ ストーカー・DV事案の取扱状況
  - ウ 児童虐待の通告状況
  - エ 少年の検挙・補導状況
- (3) 地域課関係
  - ア 110番の受理、出動件数等
  - イ 事案別110番の受理状況
- (4) 刑事第一課関係
  - ア 重要犯罪の認知・検挙状況
  - イ 重要窃盗犯の認知・検挙状況
- (5) 刑事第二課関係
  - ア うそ電話詐欺等の認知・検挙状況
  - イ 管内の暴力団情勢、検挙事件
- (6) 交通課関係
  - ア 交通事故発生状況
  - イ 県内で発生した死亡事故の特徴

**4 所管業務に関する質疑等**  
**(委員)**

最近、私が見聞きする中では、SNSを利用した運用や投資などに関する被害が増えているように感じるが、これらの被害に対してどのような取組をしているのか教えてほしい。

**(刑事第二課長)**

ご指摘の通り、SNS型のロマンス詐欺、投資詐欺は非常に増加しており、警察としては抑止と検挙の両面において各種取組を進めているところである。

まず抑止対策であるが、詐欺被害防止に関するYouTube動画や県警本部長と県知事が共演した動画など、県警においてはあらゆる媒体を用いて広報を行っている。しかしながら、「還付金詐欺は知っているが、まさか自分が被害に遭うとは思わなかった」と話す方もおられるので、こうした現状を踏まえ、警察本部と連携しながらどのような広報が良いのか引き続き検討していく必要があると考えている。

次に検挙については、首都圏等に捜査員を派遣して出金箇所に対する捜査を行うほか、県警本部と連携し、関係する他県警に対して捜査依頼を行うなど、全国規模で被疑者の追跡捜査を展開している。

また、これら犯罪への関与を疑われるのが、匿名・流動型犯罪グループと呼ば

れている新たな形態の犯罪グループである。匿名・流動型犯罪グループの特徴として、広域的な犯罪組織である一方、明確な組織性を持たず、その実態が掴みにくいという点がある。そのため県警察では、警察庁や他県警察等と連携するなど、全国警察を挙げた捜査を展開し、被疑者の特定、検挙を進めているところである。

**(委員)**

この手の犯罪は被害額が多い上に発生件数が増えており、しかも民事的にはなかなか対応が難しいところがあるので、刑事的な手続の重要性が高い分野だと感じていたが、今の話を聞かせて頂き安心した。

**5 諮問事項説明（警務課長）**

警察職員採用募集活動の推進について

- (1) 採用試験の受験状況
  - ア 警察官 A・B
  - イ 警察行政
  - ウ 警察事務
- (2) 採用試験制度
  - ア 山口県警察職員採用試験区分
  - イ 「応募者数増加」に向けた制度改正
  - ウ 「多様な人材確保」に向けた制度改正
- (3) 若手職員の意識
  - ア 採用募集に関しアピールしたら良いと思う点
  - イ 採用時に不安に感じた点
- (4) 採用募集活動の推進状況
  - ア 広報内容
  - イ リクルーター制度
  - ウ 具体的な活動事例
    - 警察本部主導の取組
    - 警察署主導の取組
    - SNSを活用した広報
- (5) 県警全体としての取組
  - ア 働きやすい職場環境の整備
  - イ 女性活躍
  - ウ 休暇の取得、時間外勤務の削減

**6 協議・検討**

**(委員)**

警察事務に関する説明で、平成29年に倍率2.9倍という時期があったが、当時は単に応募数が多かったのか、それとも採用人数が少ない割に応募が多かったのか。やはり、少子化も倍率に影響しているのか。

**(警務課長)**

その時は採用数が1人であったので、高い倍率を示したものと考えられる。

民間の採用担当者も新規採用や募集活動には苦勞していると思うので、民間企業等の採用募集活動や取組などについて、意見を聞かせてもらえると参考になる。

**(委員)**

メディアでは、若い男性が「高い給料は要らない」「そんなに出世しなくて良い」などと発言しており、福利厚生が充実した会社に行きたいという考え方が最近では多く聞かれる。

やはり、自分の生活を大切にしたいと考えるのが最近の若者の風潮だと思うが、以前、女性警察官と話をする機会があり、その時、「ワークライフバランスが確立され、結婚や出産を機に退職することなく継続就労可能な職場が良い」と言っていた。現に警察はそうした環境を構築しており、それがアピールポイントではないかと思う。

**(委員)**

実際に子供の数がどんどん減っているのは事実であり、大学も例外ではなく受験倍率が落ちている。大学側としては、オープンキャンパスを開催して高校生を招いたり、こちらから高校に出向いたりして受験広報を行っている。警察でも同じことをやっているが、どこの大学も同じ状況である。

30年くらい前の就職氷河期の頃、凄く優秀な子供たちでもなかなか就職できず、涙ながらに非正規社員などとして働いている人が多くいたが、いまだにそのような雇用形態の人がたくさんいると思うので、新卒者に頼り切らない方が良いのではないかと。今、学生たちは簡単に就職して社会に出て行くので有難いが、一方で、「こんな頼りない子たちで本当に大丈夫なのか」という不安もある。むしろ経験を積んだ人を採用するなど、これから先を考えると中途採用にも力を入れる必要があるのではないかと。

**(委員)**

警察官Aの受験状況の説明では、ここ最近で最も倍率が高かった平成26年には受験者数が500名であったが、令和5年には受験者数が155名と、約3分の1に減っている。消防や他の公務員など、警察官以外の職種に流れているのだろうか。

**(警務課長)**

正確なところは不明である。消防、自衛隊と合同で採用募集活動をする機会があり、各機関の担当者との話で、自衛隊と警察は非常に応募が減っているが、消防は希望者が多いと聞いた。何が違うのかというと、警察と自衛隊には転勤があるが消防にはなく、転勤に伴う単身赴任を嫌がる若者が多いことから、転勤が付きものである警察は敬遠されているようだ。

**(委員)**

将来の仕事に関し、子供の頃からいかに意識を持たせるかという点については、身近な場所に警察施設があったとか、警察官の仕事に接する機会があったとかが大きく影響すると思う。小・中学生は、交通安全や防災の教育を通じて警察官と接する機会があると思うが、高校生以上になるとそのような機会が減るので、高校生や大学生にも警察の仕事に関心を持ってもらえるようなイベントを増やすなどの工夫をしてみたらどうか。

また、先程の警務課長の説明の中で、簿記の資格を持っていると加点があると聞いたが、簿記資格を取得できる商業高校などに対して、資格を生かせる職場であることをアピールすれば良いと思う。

**(委員)**

長期間、普通の警察業務をやってくれる人が欲しいということであれば、今の採用形態になると思うが、例えばサイバー捜査官というスキルの高い人を確保し

たいのであれば、何年か限定で採用できる任期付き採用など、人材のシェアという形も取り入れたらどうか。

**(委員)**

今、大学4年生の息子が正に就職活動中であることから受験を勧めてみたが、「警察官はやっぱり硬い」とか「真面目でないといけない」というイメージがあるらしく、自分には向いていないと躊躇しているようだ。

リクルーター制度はとても良いものだと思うので、担当者が警察の良い面をもっと強く発信すれば、今以上に受験希望者数が増えるのではないか。

**(委員)**

大学3年生になる私の息子は消防を希望しているようだが、消防に何の魅力があるのか、警察との違いが何なのか、正直なところ分からない。

地元の祭りに警察の皆さんが白バイやパトカーと一緒に来てくれて広報を行っているが、警察の方は皆大人しいのでインパクトに欠ける。そもそも賑やかな場所なので、もっと警察を大々的にアピールしてはどうか。

また、私の知人には「警察は柔道か剣道ができないと採用してもらえない」という思い込みがある人もいるので、間違った認識を払拭するような広報もすべきではないか。

**(委員)**

公務員には定年延長の制度もあるが、働きたいと思っている人たちを定年という形で簡単に辞めさせること自体が今の日本には合わないのだと思う。これだけ働き手が足りなくなってしまうと、65歳を過ぎてもそのまま継続して働きたいと考える人を確保していく必要があると思う。せっかく警察で培われた知見があるのに、簡単に定年という理由で切ってしまうのは非常に惜しい。

定年延長については体力的な問題があるが、できることはいっぱいあるので、やりたいと思っている人、続けたいと思っている人を活用していくべきだと思う。これから先は、ダブルワークが当たり前の世代になってくるので、時間を空けずに働きたいと思う人に働ける環境を作っていく必要がある。これから先、人口は増えないと思うので、今ある人材をどう活用していくかが課題である。

**(委員)**

私の住む地域で行われる農業祭では、白バイなどの展示のほか、子供たちが警察の制服を着て写真撮影する機会があったが、その制服が子供仕様であることにとても驚いた。同時に、子供の時にこのような体験ができるのはとても貴重だと感じた。中高生にも、もっと警察に関心を持ってもらいたいので、中高生向けの広報、例えばパトカーに乗車して何か体験できるような催しがあれば良いのではないか。

また、採用年齢について、新規採用であれば年齢が33歳くらいまでだと思うが、もう少し幅を広くすることで、県外に出ている山口県出身者のUターン再就職にも力を入れてほしい。

**(委員)**

警察という職業は、将来自分の地元を守ることができる就職先だと思うので、中学生くらいの子供たちに、もっと警察の仕事についてアピールしてみてもどうか。県の行政職については学歴が関係あると思うが、警察は高卒と大卒の区別がほとんどないと聞いているので、そこもアピールポイントだと思う。

県外からの採用募集にもっと力を入れたり、各都道府県に警察があるので、山

口県警察にしかない魅力をもっとPRしたりすべきではないか。

私の印象としては、山口警察署で勤務している皆さんはとても生き生きしているので、とても良い職場環境でやりがいのある仕事だというプラスのイメージをもっとPRしてほしい。

**(警務課長)**

本日は委員の皆さんから市民目線での様々な意見を頂き、その中には既に取り組んでいるものもあるが、非常に参考になる意見もあったので、今後も更に警察職員の採用募集活動に取り組んでいきたい。

**7 配付資料等**

- 諮問事項「警察職員採用募集活動の推進」に関する資料
- 令和5年の警察活動（令和6年3月山口県警察本部警務課発行）
- 村重杏奈一日警察署長のイベント案内チラシ

**8 その他**

次回の協議会は、令和6年10月に開催予定とした。